



ほけんだより

平成24年1月 第134号



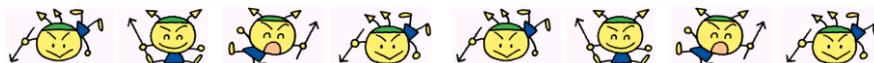
子育て施設課

0823-25-3144

嘔吐下痢症について

嘔吐下痢症を発症する原因ウイルスは、たくさんあります。（ロタウイルス・ノロウイルス・アデノウイルス・サポウイルス・アストロウイルスなど）

代表的なウイルスは、ロタウイルスとノロウイルスで、約6割を占めるとされています。



1

ロタウイルスとノロウイルス

1 ロタウイルス

〈流行〉 2～4月に多いが、年によって多少ずれます。

〈潜伏期間〉 24～72時間

〈症状〉 一般的な症状は、嘔吐・下痢・発熱・腹痛です。

通常、嘔吐・発熱が先行し、次いで、下痢を認めます。

細菌による胃腸炎に比べて、腹痛や発熱が少ないことが特徴です。

〈診断〉 便を用い、イムノクロマト法（迅速診断キット）で行います。

〈予防接種〉 今年から、ロタウイルスワクチン（経口生ワクチン）が任意接種できるようになりました。接種すれば、予防効果は十分に期待できます。



2 ノロウイルス

〈流行〉 秋から冬にかけて流行することが多い。

〈潜伏期間〉 12～48時間

〈症状〉 ロタウイルスと同様に嘔吐・下痢ですが、ロタウイルスほど発熱はみられず、症状の持続も数日と短く、ロタウイルスより軽症です。

長期免疫ができにくく、繰り返し感染します。

〈診断〉 診断キットで行えますが、医療保険による検査が認められておらず、自費となるため、一般の医療機関で検査をすることはあまりありません。

〈予防接種〉 ワクチンはありません。



※ ノロウイルスに感染した者の登所・登園や職場復帰について

ウイルスの便中への排出は、ロタウイルスと同様に2～4週間持続しますが、症状が消失してから3日目以降で、かつ、発症後1週間が経過していることを目安とすることが推奨されています。



2

感 染

経口感染や接触感染、嘔吐物や下痢便が飛び散ったり、乾燥するとウイルスが空気中に漂い、感染することもあります。

感染力が強く、特にノロウイルスは、集団感染を起こしやすいです。



発症後少なくとも1週間は便の中にウイルスが排出され、感染源になります。また症状が治まっても、3週間から1か月間、便の中にウイルスが排出されることがあります。

不顕性感染（感染していても症状がない）の場合も感染源になることがあります。流行期は、嘔吐・下痢症状の子どもだけを隔離しても、感染の拡大を防ぐことは難しいので、手洗いなどの予防対策が重要となります。

3

予 防

1 手洗い

外出後、食事の前、トイレの後、オムツ交換や便・嘔吐物を処理した後は、流水と石けんによる手洗いをしっかりしましょう。

汚れた手で蛇口に触れないような工夫が必要ですが、触れた場合は蛇口も一緒に洗い流します。

手を拭くときは、ペーパータオルか個人専用タオルを使用しましょう。



2 嘔吐物や便の適切な処理

汚物の処理、清掃、消毒を行う時は、使い捨ての手袋やマスクを使用します。

嘔吐物や便は、布や紙でふき取り、その後、塩素系消毒剤で浸すようにふきとります。使用した布や紙は、ビニル袋に入れ密封してすてましょう。

汚染された衣服などは、ポリバケツなどに入れて1か所に集め、汚物を落とし、塩素系消毒剤に10分以上浸すか、熱湯消毒（85度で1分以上の加熱）後に洗濯しましょう。

※ 塩素系消毒剤（0.1%次亜塩素酸ナトリウム液）の作り方
家庭用塩素系漂白剤（原液濃度5%の場合）10mlを水500mlで薄めます。（取り扱いには十分注意してください。）

4

治 療

ウイルスそのものに対する治療法はありませんので、下痢、嘔吐、発熱、脱水に対する対症療法になります。

吐き気がおさまったら、少量ずつ水分を補給し、脱水にならないようにしましょう。



ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>